

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 15 日 (2020.10.15)

【公開番号】特開 2018-81906 (P2018-81906A)

【公開日】平成 30 年 5 月 24 日 (2018.5.24)

【年通号数】公開・登録公報 2018-019

【出願番号】特願 2017-159647 (P2017-159647)

【国際特許分類】

H 0 1 R 11/01 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

B 3 2 B 27/18 (2006.01)

B 3 2 B 27/20 (2006.01)

H 0 1 R 43/02 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 11/01 5 0 1 A

C 0 8 L 101/00

B 3 2 B 27/18 J

B 3 2 B 27/20 Z

H 0 1 R 11/01 5 0 1 D

H 0 1 R 11/01 5 0 1 E

H 0 1 R 43/02 Z

C 0 8 J 5/18

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 21 日 (2020.8.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

上述したフィラーの露出部分の周りの樹脂層 2 の傾斜 2 b (図 1 B) や、フィラーの直上の樹脂層の起伏 2 c (図 6) の効果を得られ易くする点から傾斜 2 b の最大深さ L e とフィラー 1 の粒子径 D との比 (L e / D) は、好ましくは 5 0 % 未満、より好ましくは 3 0 % 未満、さらに好ましくは 2 0 ~ 2 5 % であり、傾斜 2 b や起伏 2 c の最大径 L d とフィラー 1 の粒子径 D との比 (L d / D) は、好ましくは 1 0 0 % 以上、より好ましくは 1 0 0 ~ 1 5 0 % であり、起伏 2 c の最大深さ L f とフィラー 1 の粒子径 D との比 (L f / D) は、0 より大きく、好ましくは 1 0 % 未満、より好ましくは 5 % 以下である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

なお、傾斜 2 b 又は起伏 2 c におけるフィラー 1 の露出 (直上) 部分の径 L c は、フィラー 1 の粒子径 D 以下とすることができ、好ましくは粒子径 D の 1 0 ~ 9 0 % である。また、フィラー 1 の頂部の 1 点で露出するようにしてもよく、粒子径 D が樹脂層 2 内に完全に埋まり、径 L c がゼロとなるようにしてもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 6】

1 フィラー（導電粒子）

2 樹脂層（絶縁性樹脂層）

2 b 凹み（傾斜）

2 c 凹み（起伏）

3 フィラー分散層（導電粒子分散層）

4 第2の樹脂層

1 0 A、1 0 B、1 0 C、1 0 D、1 0 E、1 0 F、1 0 G、1 0 H、1 0 I フィラー含有フィルム（その一態様である異方性導電フィルム）

L a 樹脂層の層厚

L b 隣接するフィラー間の中央部における接平面とフィラーの最深部との距離

L c 傾斜又は起伏におけるフィラーの露出（直上）部分の径

L d フィラーの周り又は直上の樹脂層の傾斜又は起伏の最大径

L e フィラーの周りの樹脂層における傾斜の最大深さ

L f フィラーの直上の樹脂層における起伏の最大深さ

【手続補正 4】

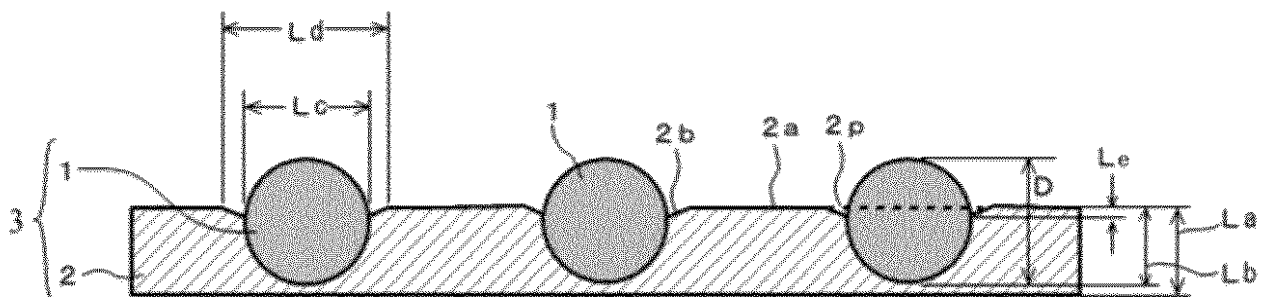
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 B

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 B】



(X-X断面図)

10A

【手続補正 5】

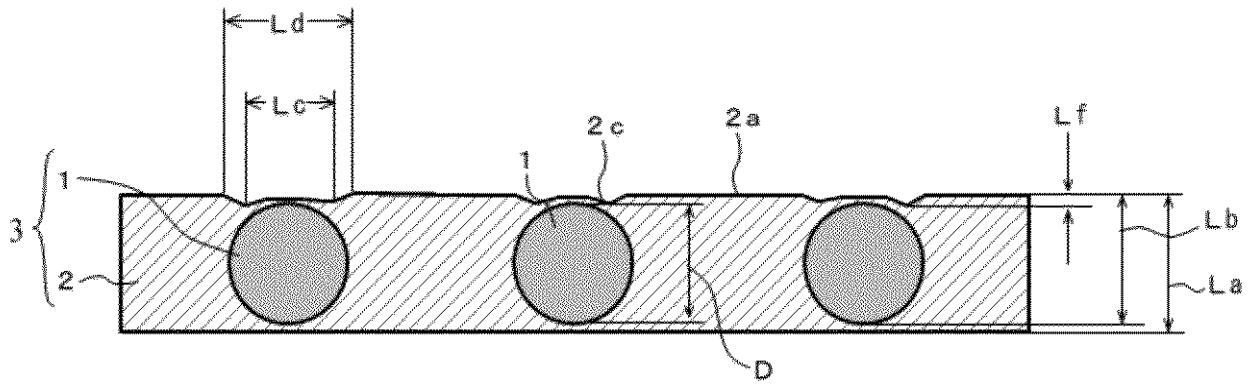
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 6 】

10F